

平成 29 年 5 月 10 日

防災教育教材開発プロジェクト 『さすけなぶる LITE』が完成

うつくしまふくしま未来支援センターでは、2014 年から事業の一環として、東日本大震災における福島県内の避難所運営の教訓を活かした防災教育教材の開発に取り組んでまいりました。2015 年にはワークショップ型防災教育ツール『さすけなぶる』が完成し、これまでに福島県内外の 1000 名以上が受講しています。

このたび、さらなる『さすけなぶる』の普及を目指し、『さすけなぶる LITE』が完成しましたので、お知らせいたします。

「防災教育教材作成プロジェクト」は、東日本大震災において福島が得た教訓を教材化し、県内外に広範に伝えていくことをねらいとしています。今後、予測されている巨大災害等に対して“備え”となることを期待し、これまで防災教育教材の開発に取り組んできました。2015 年の『さすけなぶる』完成以降、全国各地で試行的に『さすけなぶる』を用いた防災教育ワークショップを実施し、これまでに延べ 1000 名以上が受講しています。

こうした取り組みの中で、「短い時間で内容を変えずに受講することができないか」、「この教材の普及をもっと飛躍的にすべきでないか」など多くの声が寄せられました。そうした声に応えるために、普及版として『さすけなぶる LITE』を作製いたしました。

◆『さすけなぶる』について



さすけねえ

サステイナブル
【sustainable】

= さすけなぶる

東日本大震災において、福島県では多くの大規模避難所が生まれました。

想定外の広域災害のため運営マニュアルの活用が困難な状況で、避難所運営スタッフは、これまでの人生経験をフル活用して、試行錯誤を繰り返しながら日々の問題に対応してきました。

『さすけなぶる』は、東日本大震災における福島県内の避難所運営の教訓を生かして、避難所運営に関わる可能性のある方々に、広域災害時に避難所で起こる「リアル」を理解し、想定外の事態に対しても、各々の人生経験を生かして、被災者の幸せを最優先とした柔軟な対応の視点を身につけていただくことを目的とした意思決定シミュレーションゲームです。

◆『さすけなぶる LITE』について

1. 短時間で避難所運営のポイントを学ぶことができるようになりました。
2. マンガなどを導入したことで、感情移入しやすくなりました。
3. CD 一枚に教材をまとめたことで、よりコンパクトになりました。

なお、『さすけなぶる LITE』の完成に伴い、従来の『さすけなぶる』は『さすけなぶる Pro』に名称が変更となりました。

◆プロジェクトメンバー

天野和彦（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター）プロジェクトリーダー

稲垣文彦（中越防災安全推進機構）

大槻知史（高知大学）

北村育美（福島大学経済経営学類ふくしま未来 食・農教育プログラム）

定池祐季（東北大学災害科学国際研究所）

原田 慎（シーアイエー株式会社）

三澤寿美（東北福祉大学）

三平 洵（一般社団法人地域防災支援協会）

吉田まり子（一般社団法人地域防災支援協会）

李 仁鉄（にいがた災害ボランティアネットワーク）

※五十音順

（お問い合わせ先）

うつくしまふくしま未来支援センター

特任教授 天野和彦

電話：024-504-2877

メール：r646@ipc.fukushima-u.ac.jp

あなたの人生がマニュアルになる！

さすけなぶる

東日本大震災・ふくしまの教訓を生かした避難所運営シミュレーション

福島大学つくしまふくしま未来支援センターでは、東日本大震災で起きた様々な実例から教訓を学んでいく、新しい避難所防災教育ツールの開発プロジェクトを推進しています。

『さすけなぶる』は、東日本大震災・ふくしまの教訓を避難所運営で実際に起きた問題を解決していきながら学ぶワークショップ型防災教育ツールです。

すべての問題に「正解」はありません。災害・地域・人、さまざまな要因によって変わっていく状況に臨機応変に対応していかなければならない災害時の考え方をぜひ身につけましょう。

「さすけなぶる」で
学べる5つのポイント



どんな時も 大切な5つのキー

何が正しくて何が間違っているのか。その判断をするときの基準となる、教訓から導き出された5つのこととは・・・

絶対にやっては いけないこと

支援する側も支援される側も「人」です。災害時には特に必要な視点です。

さまざまな状況を 解決する考え方

想定外の出来事を解決するときに必要な力は、「把握する力」と「想像力」です。

正解は1つではなく 状況によって変わる

マニュアルで対策を決めていても想定していないことが次から次へと起こります。

あなたの人生経験が いざという時に生きる

「さすけなぶる」で学ぶことは、災害時だけでなく、チーム力を必要とするさまざまな分野で活かすことができます。

東日本大震災で起きた実際の課題を解決していきます。



さすけなぶる研究会のメンバーであるファシリテーターが、東日本大震災で実際に起きた課題を出題し、グループでその課題に対しての解決策を導きだしていきます。

実際に行った対策を踏まえながら、振り返りを行い、さすけなぶるを通して「大切な5つのキー」を習得しましょう。

受講対象者

避難所運営の専門スタッフ

社会福祉協議会スタッフ
行政職員
被災地支援 NPO 等

地域の避難所運営リーダー

避難施設管理者
自主防災組織リーダー
町内会長
児童民生委員 等

一般市民・大学生・小中高校生

公民館
講義・授業 等

※受講対象者によって習得する内容が変わります。

たくさんの方々が受講しています。



大学



民間防災団体



高校



自治体



国際学会



自主防災組織

お問い合わせ

FURE
うつくしまふくしま未来支援センター
Fukushima Future Center for Regional Revitalization

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

〒960-1296 福島県福島市金谷川1番地 TEL: 024-504-2865 FAX: 024-504-2865

fure@adb.fukushima-u.ac.jp さすけなぶるプロジェクトリーダー: 天野 和彦